

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第7回和文会誌分科会 開催日: 9月12日. 出席者: 松下主査, ほか 17 名.

1. 20件の論文審査報告がなされ, 修正依頼6件, 掲載決定14件であった.
2. 「鉄と鋼」第62年第1号(1月号)に展望1件論文10件, 技術報告1件, 技術資料1件, 掲載決定した.
3. 「鉄と鋼」の会誌のあり方について今後更に検討を進めてゆくことになった.

欧文会誌分科会 開催日: 9月9日. 出席者: 荒木透幹事, ほか 10 名.

1. 9件の論文につき審査報告がなされた.
2. 「鉄と鋼」61年15号アブストラクトより3件, 61年11号より4件, 「住友金属」より2件の研究論文について投稿を勧誘することになった.

共同研究会

鋼管部会

第17回継目無鋼管分科会 開催日: 8月19~20日. 出席者: 小滝主査, ほか 55 名.

1. 第1日目(マンネスマン関係)
 - (1) 製管作業におけるコンピューターの活用について
 - (2) 穿孔, 圧延, 定型, 絞りにおける寸法バラツキの防止について
 2. 第2日目(熱間押出関係)
 - (1) 熱間押出しで発生する疵の発生原因および要因解析調査
「横われ, ウロコ」の発生要因に関する共同実験
 - (2) ステンレス薄肉小径管の寸法精度と工具寿命について
- 上記共通議題について, 資料に基づき, 活発な発表, 討議が行なわれた.

第17回溶接鋼管分科会 開催日: 8月26日~27日. 出席者: 志水主査, ほか 86 名.

1. 第1日目(アーク溶接管関係)
 - (1) 稼働率, 作業率の管理について(ストレートシーム関係)
 - (2) 製管工場の整備について(スパイラルシーム関係)
 2. 第2日目(電縫, 鍛接管関係)
 - (1) 鍛接機の操業条件について(その3)
(矯正機以降)
 - (2) 電縫鋼管の能率について
- 上記共通議題について, 資料に基づき, 活発な発表, 討議が行なわれた.

鉄鋼分析部会

第40回化学分析分科会 開催日: 9月9日. 出席者: 岸高主査, ほか 46 名.

1. JIS 案文の様式について……前回分科会の決定に基づき, JIS 分析法を国際的に受け入れやすくするため ISO のマニュアルを提出していただき討議した.
 2. 基準鉄中の微量成分分析に関するアンケートのまとめ……標準試料委員会で作製したアンケートを化分のメンバーにも実施し, 標準試料委員会の直属幹事がとりまとめて結果を報告した.
 3. 鉄鋼化学分析法
 - C…赤外吸収法による炭素分析法につき, 第2回共同実験を実施することにした.
 - Cu…ネオクプロイン吸光光度法の共同実験を実施することに決定.
 - Co…ニトロソ R 塩吸光光度法の共同実験を実施することに決定.
 - Ti…Tiについても同様共同実験を実施する.
- その他 V, B について討議もおこなった.

原子力部会

第13回部会 開催日: 9月3日. 出席者: 大竹部会長 ほか 25 名.

1. 部会長挨拶(大竹部会長)
2. 各小委員会, グループの活動報告
 - (1) 第2小委員会(東北大 高橋委員長)
 - イ) 今後は還元鉄について利用側および製造側の境界領域の問題を W.G. 中心に検討する.
 - ロ) 新製鉄法は溶融還元法をとりあげてみる.
 - ハ) 流動層 W.G. は継続する.
 - (2) 第4小委員会(東工大 一色委員長)
 - イ) 金属による熱交換器の勉強会は今後も継続する.
 - ロ) セラミックで熱交換器が作れるかどうかを検討するため W.G. を作る.
 - (3) 第5小委員会(東大 笛木委員長)
 - イ) 今後一般炭のガス化をテーマとして採りあげ, 3つの W.G. で研究していく
 - (4) 特許グループ(千葉主査)
3. 非金属超耐熱材料調査 W.G. 報告
(東工大 鈴木主査)
4. 原子力製鉄技術研究組合報告
(原子力製鉄技術研究組合 下川常務理事)

第41回第4小委員会 開催日: 8月25日. 出席者: 一色委員長, ほか 15 名.

- (1) 文献紹介, TRANSACTIONS OF THE AMERICAN NUCLEAR SOCIETY
“Design Concept of Experimental Multipurpose VHTR” 発表者 原研・佐野川委員
- (2) 講演「非金属超耐熱材料の原子力製鉄への利用の可能性に関する調査報告書」

非金属超耐熱材料調査 W.G.

主査 鈴木 弘茂 (東工大)

代理講演者 東芝・米屋勝利氏

本調査報告書は、日本鉄鋼協会が、通産省工技院の昭和49年度大型工業技術研究開発調査委託を受けて、当該の原子力部会の下に W.G. を設けて、調査、検討を行なったものであり、今後当小委員会の下に結成するセラミック熱交換器検討 W.G. の貴重な資料となるので、その内容について発表を行なつて頂いた。

国際鉄鋼技術委員会

第2回委員会 開催日：8月22日。出席者：梅根日本代表、ほか14名。

1. 第7回国際鉄鋼技術委員会(4月東京開催)の報告
2. 技術委員会 W.G. (5月23日ブラッセル)の報告

技術変化とエネルギー使用との相関について過去15年間のデータをまとめる(各国別に)という宿題が与えられたので、日本では新日鉄池田副部長がとりまとめ責任者となり、エネルギー W.G. を設置することになった。第1回会合は9月2日開催し、10月初めまでに各社より提出された資料をまとめあげる予定である。

3. エネルギー特別専門家会議の報告

技術委員会では Reference Book という作業を進めておりエネルギー換算表を作成中である。これについても今後 W.G. を中心に検討してゆくこととなった。

試験高炉委員会

第27回委員会 開催日：8月12日。出席者：辻畑委員長、ほか16名。

1. 第26次操業中間経過の報告

東大・生研・館教授より、今次操業の主目的である良質、劣質コークスによる試験高炉操業に差異が認められているとの報告があつた。

2. 試験高炉見学

出席者全員は操業中の試験高炉を見学し、特に、ファイバースコープによる炉内状況を興味深く観察した。

3. 今次操業コークス単価について

劣質コークスは特殊な配分により、また良質コークスは再破碎により得たためコークス単価が高騰した旨報告があつた。

材料研究委員会

第15回委員会 開催日：9月5日。出席者：天明委員

長、ほか11名。

1. 今後の研究計画について審議し、年内は「文献調査」「手持ちデータの紹介」を行ない実験計画を固めた後、来年から実験に入る予定を確認した。

2. 「焼入性の評価方法」の「基礎」「試験方法」に関する文献の紹介および討論を行なった。

3. 新日本製鉄(株)製品技術研究所の見学を行なった。

鉄鋼基礎協同研究会

第11回凝固部会 開催日：8月20～21日。出席者：郡司部会長、ほか33名。

1. 特別講演「電気化学的方法による凝固組織の顕出法」講師 金材技研 藤井哲雄、電解腐蝕による顕出法の原理を説明した後各委員より提出された試料の組織をスライドを使用して説明した。

2. 重点テーマ「等軸晶の生成について」

上記テーマに関し7件の資料が提出され、活発に討論が行なわれた。

3. 一般研究報告

提出資料は9件あつた。

4. 次回重点テーマは「マイクロ偏析について」、「アームスペーシングについて」

5. 次回開催は11月中旬、東京地区で開催する予定である。

特殊精練部会

第2回第5分科会 開催日：8月21日。出席者：小林主査、ほか15名。

1. 前回議事録の確認…第1回分科会(6月3日開催)の議事録を宇田委員が朗読し異議なく承認された。

2. 資料発表と討論

第1回分科会の決定に基づき4人の方に資料の発表をお願いした。

(1) Structure of Slag (Review 1)—Basicity of Slag—(阪大 岩本委員)

Structure of Slag (Review 2)—The Role of CaF_2 in Slag—(阪大 岩本委員)

(2) エレクトロスラグ溶接における物理現象—母材の溶込みならびにスラグ浴内の物理現象—

(阪大 仲田委員)

(3) IIW における ESW 用フラックス及びワイヤの分類規格に関する討論から (名大 益本委員)

(4) 鋼板電極エレクトロスラグ溶接法による鋼片の接合について (新日鉄 浅井オブザーバー)